

第7回 摂津市まちづくり市民会議 議事概要

日時：8月3日（月）19:00～22:00 暮らし部会
8月4日（火）19:00～21:30 まち部会
場所：摂津市立男女共同参画センター 大会議室
出席者：暮らし部会 11名（欠席0名）、まち部会 10名（欠席1名）、
事務局 7名、コンサルタント 4名

《第4回暮らし部会》

1. 「提案シート」の検討

- ・部会のとりまとめとして、下記の「提案シート」の検討を行いました。
（意見交換の概要は別紙に整理しています。）
- ・意見交換をふまえ、8月14日までに修正し、事務局へ提出することになりました。

- 1.高齢者福祉に関して
- 2.障害があっても安心して住み続けられる町づくり
- 3.地域で育む医療ネットワークで子育てから一人住まいまで安心して生活できるまち“摂津”
- 4.福祉と医療に関する情報のキャッチボール
- 5.子どもを安心して生み、育てられる町 子育てしてみたい町 摂津
- 6.学校視察の制限緩和、学校協議会の公開
- 7.地域力の向上（地域・学校・家庭が連携したまちづくり）
- 8.図書館機能の充実
- 9.摂津市における生涯学習のありかた
- 10.歴史・文化について
- 11.第3次総合計画総括報告書等の活用について
- 12.隣り近所のトラブルの根絶！～安心して住み続けるために～

2. リーダー・サブリーダーの選任

- ・話し合いにより、リーダーを宮田さん、サブリーダーを服部さんをお願いすることになりました。
- ・上野さんから新聞記事について情報提供がありました。

《第4回まち部会》

1. 第4回まち部会の進め方について

- ・はじめに事務局から河川水路図、道路路線図、都市公園図についての説明を行い、意見交換を行いました。
- ・続いて、提案シートについてこれまで検討していない分野について議論を行うこととし、次の3点が話し合われました。

- ① 歴史・文化の保存・啓発に努める
- ② 愛着が持てる景観をつくる（街路樹）
- ③ 子どもの安心・安全をまもる

2. 河川水路図、道路路線図、都市公園図についての意見交換

- ・次のような提案や意見交換がありました。
- ・コンクリートで覆われたりしていると、実際にどこに水路があるのか分からない。
 - ・摂津市は地盤が軟らかいので地震が起きた際には液状化が懸念される。
 - ・公園の規模、数と子どもの数には相関関係があるのか。
 - ・鳥飼地区の方が区画整理が新しいため公園が多い。

3. 「提案シート」の検討

- ・次のような提案や意見交換がありました。
- ◇**歴史・文化の保存・啓発に努める**
 - ・歴史をどのように語り継いでいくか、また、歴史をどのように魅力として活かしていくか、この2点が大きな課題であると思う。
 - ・歴史を日常的に語り合うしくみをつくれれば、歴史を定着させていくことができる。
 - ・歴史的遺産を保存・展示していかなければならない。
 - ・地元ではない人が祭りなどまちの伝統文化を知らない、また、参加できないことは非常にもったいないことだと思う。
 - ・神輿や太鼓などを維持・管理するためには費用がかかる。また、日常的な管理も必要となり、お金と奉仕の両面から新しい人がなかなか入ってこられない。
 - ・新しい人が祭りなどにどのように入っていけばよいか考えなければならない。
 - ・子ども会も古い人が役員を担い続けており、世代が変わるまでには時間がかかる。
 - ・世代が変わるまで伝統を継続していくためには、人的ネットワークや他地区との協力などの取組みが必要である。
 - ・新旧住民の日常的なつながりがコミュニティの形成にも必要である。
 - ・藤森神社の周りには魅力がたくさんある。
 - ・市民が摂津市の歴史に対してあまり関心がない。

- ・洪水、治水との闘いの歴史について知られていない。
- ・まちの歴史について語り手はいるはずである。
- ・ふるさと撰津案内人など地域の人材を活用する発想、習慣が行政にも必要である。
- ・地域の人材を活用できれば歴史は定着していくのではないかと。
- ・公民館の歴史講座は高齢者ばかりである。
- ・市民（各世帯）に市内の名所を紹介するパンフレットを配布したり、スタンプラリー（撰津市内ウォーキング）などの企画を行ったりすれば、関心を持ってもらえるのではないだろうか。
- ・語り手の力を発揮できる機会をつくらなければ、学ぼうという意識も向上せず、語り手としての取組みが長続きしない。
- ・ふるさと撰津案内人など人材育成はできているが、活用できていない。
- ・市全体で人材を活用する意識が必要であり、行政はそのためのシステムを構築する必要がある。
- ・担当窓口として“観光課”をつくるのも1つの案だと思う。
- ・行政だけではなく市民も参加して組織づくりを行わなければならない。
- ・自治会なども活用できないだろうか。

◇愛着が持てる景観を育む(街路樹)

- ・道路周辺を生活環境として相応しいものにするために街路樹や水路をうまく活用していくべき。
- ・維持・管理には費用がかかる。
- ・地域の人が自分の地域をどうしたいのか、その想いを反映させていかなければならない。
- ・自分たちにとって愛着が持てれば、自分たちで管理していくことができる。
- ・自分たちで意見を出し、決定し、自分たちで管理するために住民と行政が一緒になって愛着が持てる景観を育てていく必要がある。
- ・自治会も協力していく必要がある。
- ・撰津市は木が少なく、特に高い木が少ない。
- ・愛着が持てる景観を育てていくためのきっかけは行政がつくっていく。
- ・撰津市はどのような基準で街路樹を植えているのか分からない。
- ・空からの写真で少しでも緑が分かるように緑を増やしてほしい。
- ・春は桜、秋は紅葉など季節によって変化がほしい。
- ・生活空間をよくするための1つのツールとして街路樹を活用すべきである。
- ・道路周辺に緑を増やすのか、公園として緑を増やすのか具体的に決めていかなければならない。
- ・緑のカーテンコンテストなどの企画を実施することも必要である。

◇子どもたちの安心・安全をまもる

- ・死角をつくらないようにまちづくりの中で工夫する必要がある。
- ・公園は低木を植えないなどの工夫をすることによって、常に外から見えるようにしておく。
- ・安心・安全と対極の場所をつくらないためにも、常にきちんと管理されている状況をつくっていく必要がある。
- ・通学路の安全を確保する。
- ・子どもたちの遊び場がない。放課後どこで遊べばいいのか。
- ・守口市や大阪市では放課後、学童とは別に教室を開放することで遊ぶための場所を提供するなどの取組みを行っている。
- ・小学校を活用すべきであるが、指導者を確保できないという課題がある。
- ・学校の管理下における責任の問題も克服しなければならない。
- ・地域の人材を活用し、学校で子どもたちの居場所をつくり、育むしくみをつくっていく。
- ・公園で子どもたちの姿を見かけない。
- ・ボールを使える場所がない。また、広さがない。

4. 第8回市民会議（全体会）に向けて

- ・各提案について発表の分担を決定しました。

	提案のテーマ	発表担当者
第5回	市民の手による「まち育て」	榎谷
	水に親しみを感じるまち	中村
	“低炭素都市”として脚光を浴びるまち	沖野
	誰もがスムーズに市内を移動できるまちをつくる	中村
第6回	多世代が住んでいる活気あるまち	筒井
	駅周辺の賑わいづくり	高田
第7回	歴史・文化の保存・啓発に努める	長尾
	愛着が持てる景観を育む(街路樹)	荻野
	子どもたちの安心・安全をまもる	山本

- ・サブリーダーの選任

まち部会のサブリーダーは長尾さんに決定しました。